

# 11月 依存症家族勉強会のお知らせ

## 中学校の出前授業でこんな話をしてきました

「薬物は危険で、ゼツタイにやってはいけない」というメッセージが、実は「薬物を使用する人は危険で、一度使えばもう二度と引き返せない」という偏見を生んでいます。残念ながら、それは大人から子どもまで、国中に蔓延しています。そういう偏ったとらえ方の延長線上には「(自分も他の人も同じ人間なのだととらえ方ではなく)薬物やる人は自分とは違う人間」観が生まれ、人を排除する考えにつながっていきます。しかし、その考えはまわりまわって最終的に必然的に自分自身が多様で豊かなつながりを失っていくということになるのです。「人の痛みを理解する必要なんかない」ということが当たり前になってしまえば、それは「自分の痛みも理解されなくて当然」と同じことです。小学校や中学校で薬物乱用防止教育を行うことで、こんな閉塞的で心の貧しい人になってしまう素地を作ってしまうのなら、なんのための教育でしょうか。

今回の出前授業は、自分たちの身の回りにどれだけたくさんの依存対象(薬物アルコールなどの物質依存やギャンブルやゲームなどの行動の依存)があるのかという話から始めました。最も関心が高かったのはゲーム障害の話でした。インターネットゲームの画像をいくつか見せると、身を乗り出してきました。寝食を忘れるほど熱中してしまうゲームが下手をすると生活を破壊してしまうという現実、他人ごとではありません。これから大人になっていく過程で、つらいこと悲しいことを紛らすために依存行動を繰り返すようになる危険性を持たない人はいません。その意味ではみんな他人ごとではありません、そうじゃないかと投げかけました。

次に、今年7月から9月にかけてこのお知らせに連載してきた『ラット・パーク実験』の話に移りました。依存症はその人個人の問題、その人の責任だと見られてきましたが、そうではなく、その人が生きている環境の要因が極めて大きいということを、ラットの実験で証明した話です。健康的な環境やつながりがあれば、依存行動を止めることができるということを証明した話です。恐るべきことに、中学1年という年齢で「依存症は治らないと思っていた」とほとんどの生徒が言うのです。一体どこで、いつからそんなふう考えるようになったのでしょうか？それは大人たちがそう考えているからに他なりません。そう考えることが本当かどうかなど考える機会もなく、「依存症は怖い病気。一生治らない」とどの子も判で押したように考えていたのです。そういう見方や考え方があるから、依存症に苦しむ人たちは社会の中で肩身の狭い思いをしていくのです。回復しようという意欲に冷水を浴びせかけられるのです。そんな環境では依存行動に逃げ込みたくなくても不思議ではありません。それを「弱いやつだ」という一言で片づけていいのでしょうか？

最後に、こんな問いかけをしました。

「薬物やる人はみんな悪魔ですか？」

「薬物をやったら廃人なんですか？」

「薬物をやったらその後の人生は終わりですか？」

「薬物やる人は人間じゃないって、ホントにそうなんですか？」

テストのような解答はありません。一人ひとりが自分で答えを見つけたいと思いました。話を聞いた一人ひとりに素直な感想をとでも聞いてみたくになりました。たった1度きりの出前授業でしたが、本当に大切なものはなにかということを考える種子を、ほんのわずかでも蒔くことができたらいいと思います。

## 中学生たちの感想

「ぼくはこの話を聞くまでは、薬物は1回吸ったらめげだせなくて人をあやめたり暴走するのかなと思っていました。しかし、この話を聞いて、またちがう感情を持ちました。薬物をやった人でもかんきょうがそろってれば抜け出せるし、手をだしてしまうのはその人がなんらかの、ぼくたちには考えられない悲しい感情があったからだとも知りました。ぼくはそんな人に“来るな！”などと言わずに、相談に乗れる人になりたいと思いました。」

「僕は一度依存症になるともう治らないとずっと思っていたのですが、治ると聞いてびっくりしました。僕は依存症の人には差別的な感情をいだいていたので、それをやめようと思いました。」

「今までは、薬物は絶対にしてはいけない、健康に悪影響を及ぼす、やめられなくなるなどの話しかされてきていませんでした。だけど、今日は、周りにいる人たちが手を差し伸べることが大切だと言っていたのが印象的でした。もちろん薬物乱用はいいことではないけど、それをしたからといってその人の全てを否定するのではなく、受け入れ治療を手伝うことが大切だということを学びました。」

「私は薬物依存症は病院に行かないと治らない、薬物依存症の人は全員こわい人で、危険な人だと思っていました。なので、先生の話の聞いたときはおどろきました。・・・人間は苦しい時や辛い時にがまんができなくなり、薬物に手を出してしまい、歯止めがきかなくなってしまうのだと思いました。薬物乱用者を減らすためには助け合いが大切のかなと思いました。」

「薬物乱用は人を必ずダメにするのではなく、使用してしまった人を救えることがわかって、ビックリしました。」

「これまで私は、薬物を使っている人はやめようと思ってもやめられないものだとおもっていたけど、つながりがあればやめられるんだと知りました。私は家族、友達など、自分のことを大切に思ってくれる人がいるということはとてもいいことなんだとわかりました。」

11月10日(土)勉強会Bはお休みします

11月24日(土)AM10時～勉強会A(講義と練習)/依存症研究所研修ホール